

2014 年度地域医療実習レポート

学籍番号：M10009

学生氏名：上野山郁人

出身都道府県：和歌山県

実習期間：平成 26 年 8 月 25 日～平成 26 年 9 月 5 日

実習施設：①高野町立高野山総合診療所（8 月 25 日、26 日、9 月 1 日～5 日）

住所：和歌山県伊都郡高野町大字高野山 631 番地

TEL：0737-56-2911

②紀美野町国民健康保険国吉診療所（8 月 26 日～28 日）

住所：和歌山県紀美野町田 63 番地

TEL：073-498-0002

③紀美野町国民健康保険長谷毛原診療所（8 月 26 日～28 日）

住所：和歌山県海草郡紀美野町毛原宮 254

TEL：073-499-0300

指導医氏名：蒸野寿樹 先生（30 期卒 町立高野山総合診療所）

岡地英紀 先生（19 期卒 国保国吉・長谷毛原診療所）

臨床教員氏名：廣内幸雄 先生（1 期卒 町立高野山総合診療所）

宿泊：無量光院（8 月 24 日、25 日、31 日、9 月 1 日～4 日）

かじか荘（8 月 26 日～28 日）

1. 実習施設とその地域の概要

①高野町立高野山総合診療所

高野山は、和歌山県北部、周囲を 1,000m 級の山々に囲まれた標高約 800m の平坦地に位置する。真言宗の宗祖である空海（弘法大師）が宗教活動の拠点とした地域であり、真言密教の聖地、また、弘法大師信仰の地として、21 世紀の今日も多く多くの参詣者を集めている。世界遺産に登録された後、2009 年にミシュラン・グリーンガイド・ジャパンで三つ星を獲得したことから、海外から訪れる客も後を絶たず、高野山総合診療所には地元の方だけでなく、遠方から来た旅行者の患者も多く受診される。へき地医療支援、地域医療を実践し、小規模ながら医療機器を整備した地域密着型の診療所で、もともとは高野山病院として経営されていたが、2010 年 4 月から経営形態が変更された。現在常勤医師数は 3 名で、外来診療科として内科・外科・眼科・（小児科）が存在する。

②紀美野町国民健康保険国吉・長谷毛原診療所

紀美野町は、和歌山県中部の海草郡にある町で、2006 年に野上町と美里町が合併して誕生した。紀美野町の町名は公募によるもので、紀州の「紀」と美里町の「美」、野上町の「野」

を取り、「君の町」の意味とかけたものである。国吉・長谷毛原診療所が位置する町東部は非常に自然が豊かな地域であり、様々な種類の野生動物を見かけることができるほか、夜には満天の星空を観察することができ、夏場はキャンプなどに訪れる利用客で賑わいを見せている。国吉・長谷毛原診療所ともに常勤医師は岡地先生 1 人であり、午前・午後などにわけて 2 つの診療所を行き来しているほか、診療所まで来られない住民のために時間を決めての往診なども積極的に行われている。

2. 実習内容

①高野町立高野山総合診療所

○実習スケジュール

	午前	午後
8 月 25 日 (月)	救急処置見学 オリエンテーション 施設見学	訪問看護見学 外来見学
8 月 26 日 (火)	放射線・検査室見学 外来見学	乳幼児健診 外科処置 外来見学
9 月 1 日 (月)	外来見学	訪問看護見学 外来見学
9 月 2 日 (火)	外来見学 エコー見学 検査室実習	外来見学 講演会
9 月 3 日 (水)	院長先生講和	院長先生講和 保健安全委員会
9 月 4 日 (木)	デイサービスセンター実習	往診 外来見学
9 月 5 日 (金)	外来見学 地域見学	地域見学

○各項目の詳細と自己評価

・救急処置見学

<自己評価 D>

実習初日朝、診療所に到着すると救急患者が搬送されていた。何かお手伝いできることがあればと思ったが、一歩引いてしまい、積極的に動くことができなかった。

・訪問看護見学

<自己評価 C>

看護師さんに付き、訪問看護を見学させて頂いた。看護師さんや患者さんとのお話を通じ、診療所のあり方や高野山の地域性について学ぶことができた。また、様々な介護の仕方を見学させていただいた。

・外来見学

<自己評価 B>

実習を通して、院長である廣内先生の外来診察をたくさん見せていただくことがで

きたほか、他病院から来られた眼科の先生の外来も見学させていただいた。院長先生は診療の合間に空いた時間で過去の様々な症例を紹介してくれ、とても勉強になった。手技も何度かさせていただけたが、緊張の為か思うようにいかないこともあった。

・放射線・検査室見学

＜自己評価 B＞

外来患者さんの採血や、その採取した血液の検査などをさせていただいた。また、直腸造影など病院ではあまり見る機会のない手技を見学させていただくことができた。

・乳幼児健診

＜自己評価 C＞

見学のほか、成長に伴う様々な発達課題、反射などについて教えて頂いた。

・外科処置

＜自己評価 B＞

外傷で受診された外来患者さんの縫合処置を手伝わせていただいた。

・エコー見学

＜自己評価 B＞

検査技師さんに心エコーについて教わった。一度は学習したことでも忘れてしまっているものもあり、復習の大切さを感じた。

・講演会

＜自己評価 C＞

デイサービスセンターにて弁護士の先生から高齢者虐待の話を伺った。

・院長先生講和

＜自己評価 A＞

高野山の歴史や地域性、診療所の現状などについて様々なことを教わった。とても興味深いお話で、学生がどうあるべきかなどもお話していただき、非常にためになった。

・保健安全委員会

＜自己評価 C＞

高野山中学校にて学生に関する保健安全委員会に参加させていただいた。中学生の生活や健康状態の現状を知ることができたほか、気を付けるべき疾患などについても教わる事ができた。

・デイサービスセンター実習

＜自己評価 C＞

診療所の近くにあるデイサービスセンター内の診療室で担当の先生のお話を伺った。また、利用者の入浴介助などを見学させていただいた。

・往診

＜自己評価 B＞

患者さんのお宅にお邪魔し、お話を聞いたり、手技を見せて頂いたりした。

②国吉・長谷毛原診療所

○実習スケジュール

	午前	午後
8月27日(水)	外来実習 訪問看護	外来実習 訪問看護
8月28日(木)	福祉センター実習	福祉センター実習
8月29日(金)	小中学校見学 保育所・デイサービスセンター見学	外来実習 往診

○各項目の詳細と自己評価

・外来実習

＜自己評価 A＞

先生の代わりに受診した患者さんの対応をさせていただき、バイタルチェックの他、先生・看護師さんにサポートしていただき、自治医大の病棟 BSL では出来ないような様々で手技を経験させていただくことができた。

・訪問看護

＜自己評価 B＞

看護師さんたちと様々なお宅を訪問した。訪問の過程でいろいろな話を聞くことが出来たほか、地域の案内などもしていただいた。患者さんのバイタルなども取らせていただいた。

・福祉センター実習

＜自己評価 C＞

福祉センターの保健師さんと共にお宅を訪問し、介護認定作業を見学させていただいた。今まで保健師さんに関わる機会がなかったので、とてもいい経験になったと思う。

・小中学校見学

＜自己評価 B＞

地元の中学生と運動を通じて交流した。地域の人たちと直接関わる機会を作っていただき、とても貴重な時間を過ごすことができた。

・保育所・デイサービスセンター見学

＜自己評価 B＞

地域の方々とお話することが出来たほか、「頑張ってください」など温かい言葉をかけていただき、とても励みになった。

・往診

＜自己評価 B＞

先生・看護師さんと共に様々な患者さんのお宅を訪れた。自分の普段の生活からは考えられないような山奥に住んでいらっしゃる方もいて、往診の重要性を感じる事が出来た。

3. 考察

地域医療実習が始まる前、私はとても実習に対する不安な気持ちを抑えることができなかった。将来は地域医療に従事して社会のために役立ちたいと志し、この自治医科大学に入学したものの、いざ実際に地域の病院や診療所に出てみると、そこの診療所スタッフのみなさんや地域の方々に受け入れて頂くことができるのかが怖くて仕方なかったのだ。今までにも何度か、毎年行われている県の主催する夏季研修にて地域の病院や診療所のお世話になったことはあるが、今や私は5年生になり、2週間という今までの地域実習よりもずっと長い期間を前にすると同時に、自分はもうすぐ卒業し一線に出て働かなければならないということを自覚してみると、どうしても気持ちが萎縮し、一歩引いてしまうところがあった。しかし実際に実習場所に着いてみると、診療所スタッフの方々は、高野山総合診療所、国吉・長谷毛原診療所共に、とても明るく私を迎え入れて下さった。それだけでなく、診療所を受診した患者さんや地域で働かれている方々にも、私が実習生であることを説明すると、「どうか頑張ってください」と温かいお言葉を何度もかけていただくことができ、今まで感じていた不安な気持ちがとても楽になったのを覚えている。

高野山総合診療所では、基本的に院長である1期生の廣内先生の外来診察を見学させていただいた。患者さんの気持ちを汲み取り、思いやりを持って温かく接する姿は、さすが自治医大

の大先輩であると深く敬服した。それだけでなく、外来の合間には過去にご自身が担当された様々な興味深い症例を私に紹介して下さり、医師としてだけでなく、教育者としても尊敬の念を抱いた。廣内先生に付かせていただいているときとても印象的だったのは、乳幼児検診でお子さんを連れてこられた母親に、小さいころからここで廣内先生にお世話になっているというお話を聞かせていただいたときだ。廣内先生はもう 30 年以上この高野山の地で地域医療に従事されており、住民と世代にわたって深い関わりを持ち町とともに歩んでいくという、地域医療の道をまっすぐに進まれている方なのだとすることを改めて感じさせられた。廣内先生だけでなく、30 期生の蒸野先生や研修医の方々、看護師や検査技師さんをはじめとする多くのスタッフの方々にも多くを学ばせていただくことができた。

国吉・長谷毛原診療所では 19 期生の岡地先生に指導していただき、3 日間の実習を行った。短い期間ではあったがとても充実した実習で、診療所を受診された患者さんは基本的に私が全て対応し、先生や看護師の方々にサポートしていただきながら手技もほとんど私にやらせていただくことができた。このようなことは大学の病棟 BSL では絶対に体験できることではなく、もし受け入れて下さるのなら、是非またここで実習させてほしいと心の底から感じた。国吉・長谷毛原診療所で何度も思ったことは、とても診療所スタッフの雰囲気がいいということだった。職種に関係なくお互いがお互いを尊敬しあいながらも、他愛もない会話などで自然な笑顔が絶えず、スタッフ全員が地域を愛し仕事に従事しているのを見て、自分も将来はこのような職場で働きたいと強く思った。

高野山診療所、国吉・長谷毛原診療所ともに、実習中、医師一人に対する負担の大きさについて考えさせられる場面が何度かあった。2 つの診療所を掛け持ちされている岡地先生はもちろん、高野山診療所も現在は基本的に廣内先生と蒸野先生が 2 人で、観光地であり患者数も多い高野山地区をカバーしなければならない状態になっている。実習させて頂いた地域とは異なるが、私の出身である有田市の市民病院も現在内科医が 1 人しかおらず、人口 3 万人の市の中核病院にあるまじき事態である。最近地方の公立医科大学も受け入れ人数が増え、医師の絶対数は増加していくだろうと予想されるが、だからと言ってそれが直接医師不足の解決に繋がるとは限らない。今よりもっと多くの人が地域医療に対して熱意を持ち、実際に取り組まなければこの問題が解決されることは難しいだろうと思う。しかし何よりも、まず私自らが卒業し力になりたいと、この実習を通して強く思えるようになった。

4. 謝辞

本実習を行うにあたり、高野山総合診療所の廣内先生、蒸野先生をはじめとする診療所スタッフの方々、また国吉・長谷毛原診療所の岡地先生をはじめとする診療所スタッフの方々には大変お世話になりました。この 2 週間は私の人生の中でもこれからおそらく絶対に忘れられることのないとても大切な経験となりました。この実習で学んだことを将来に活かせるよう、まずは医師になることを目標に努力を重ねていきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。